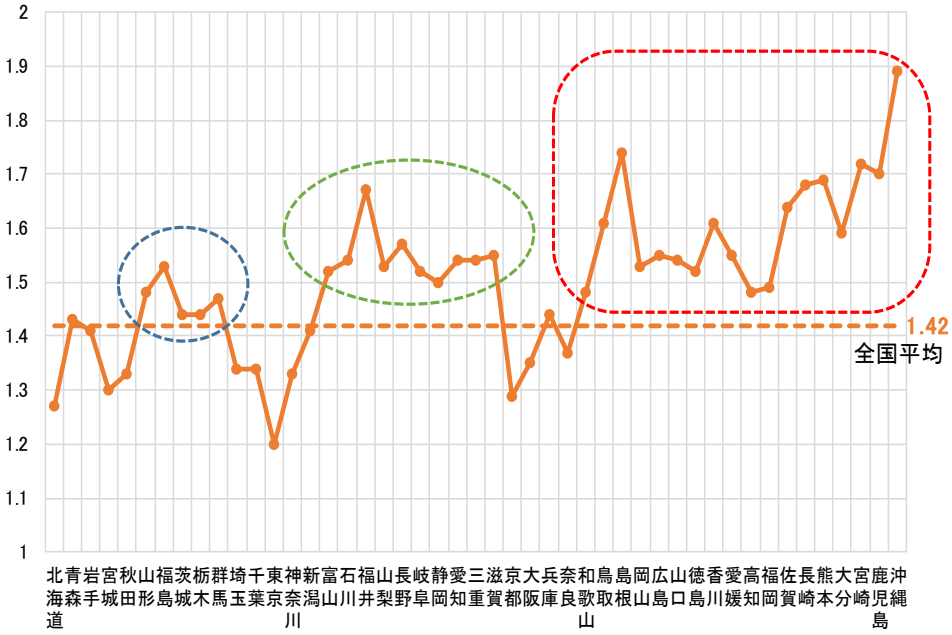


出生率等の地域差

○東北・北関東、中部、西日本の出生率は全国平均と比べ高め。
 ○東北・北関東、中部は女性の未婚率が低く、東北・北関東、西日本は第一子出生時の母の年齢が低い。

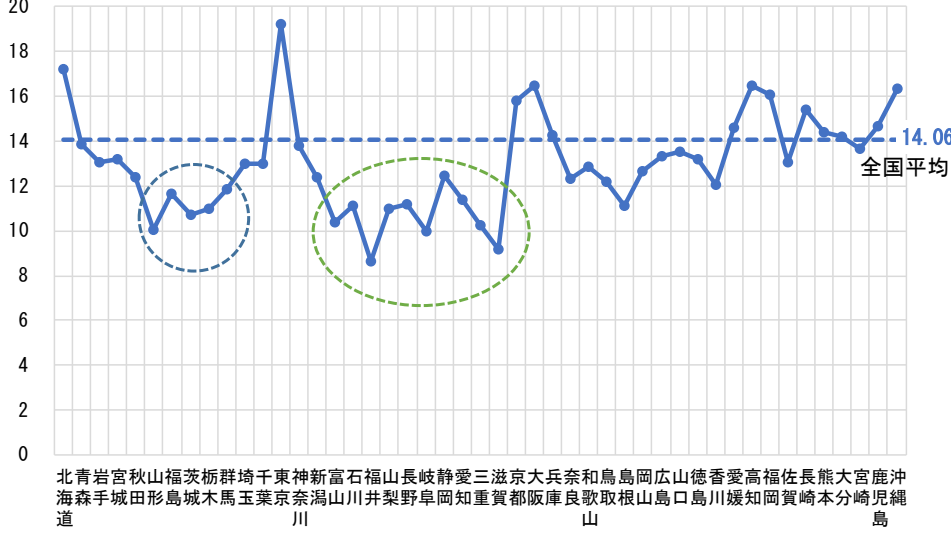
都道府県別合計特殊出生率(2018年)



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄道

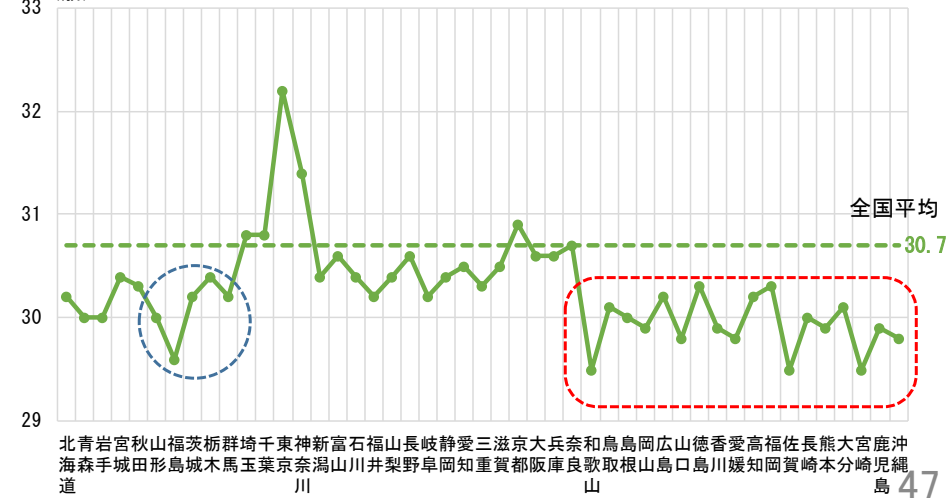
(備考)
 (上図)(右下図)厚生労働省「平成30年(2018)人口動態統計」により作成。
 (右上図)国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2019」により作成。

50歳時未婚割合(女性)(2015年)



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄道

第一子出生時の母の平均年齢(2018年)



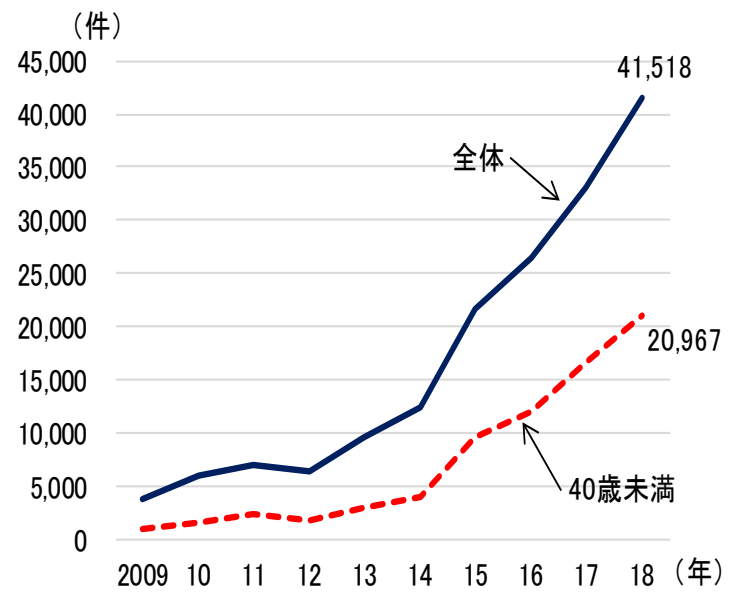
北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄道

待機児童の地域差、若者の地域指向

○待機児童数全体に占める首都圏の割合は約4割。各都県の待機児童数は特定の市区町村に集中。
 ○ふるさと回帰支援センターへの来訪者・問い合わせ数は増加傾向にあり、40歳未満の割合は約半分を占める。

都府県	待機児童数 上位10都府県		首都圏等の待機児童数			兵庫県の待機児童数		
	待機児童数(人)	シェア率(%)	市区町村	待機児童数(人)	シェア率(%)	市町	待機児童数(人)	シェア率(%)
東京都	3,690	22.0	世田谷区	470	12.7	明石市	412	26.3
沖縄県	1,702	10.1	中央区	197	5.3	西宮市	253	16.1
兵庫県	1,569	9.4	調布市	182	4.9	神戸市	217	13.8
福岡県	1,232	7.3	江戸川区	170	4.6	姫路市	165	10.5
埼玉県	1,208	7.2	中野区	157	4.3	宝塚市	159	10.1
千葉県	1,020	6.1	府中市	146	4.0	尼崎市	148	9.4
神奈川県	750	4.5	町田市	127	3.4	加古川市	46	2.9
大阪府	589	3.5	国分寺市	125	3.4	三田市	35	2.2
宮城県	583	3.5	足立区	123	3.3	芦屋市	32	2.0
岡山県	580	3.5	北区	119	3.2	川西市	29	1.8
10都府県小計	12,923	77.1	10市区町村小計	1,816	49.2	10市町小計	1,496	95.3
全国合計	16,772	100.0	東京都合計	3,690	100.0	兵庫県合計	1,569	100.0

ふるさと回帰支援センターへの来訪者・問合せ数



(備考) 1. 認定NPO法人・ふるさと回帰支援センター「2018移住希望者の動向プレスリリース」により作成。
 2. 40歳未満は来訪者・問合せ件数にセンター利用者の40歳未満の利用割合を乗じて算出。

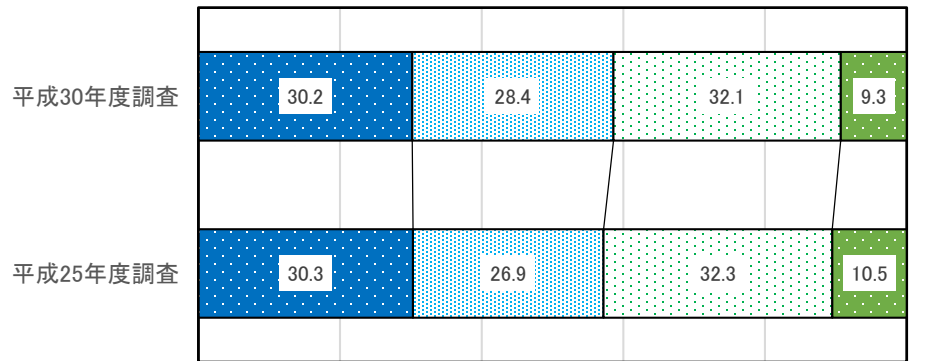
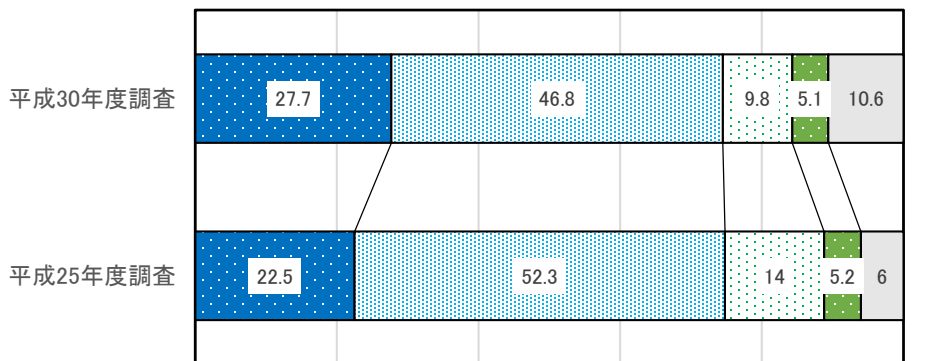
(備考) 厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」等により作成。数値は、2019年4月1日現在。

我が国と諸外国の若者の意識

○今住んでいる地域への愛着や、将来も住んでいたいという意識に大きな変化はないが、後者については諸外国と比べて低い水準。

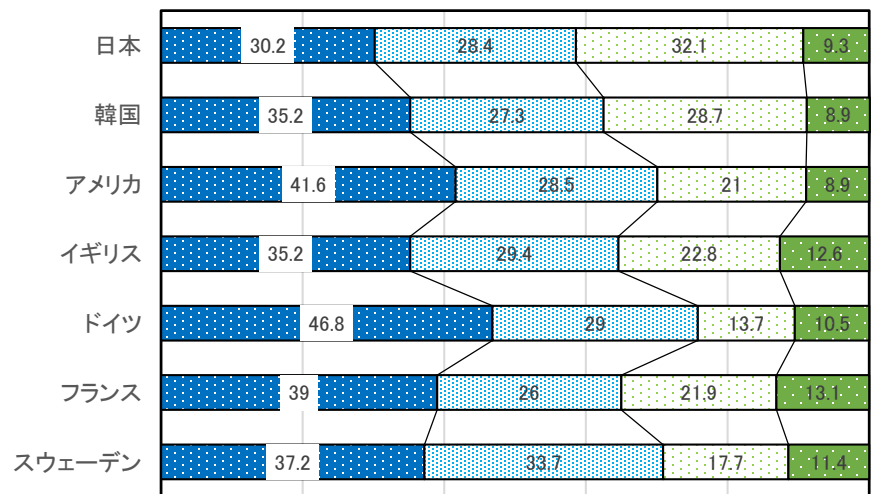
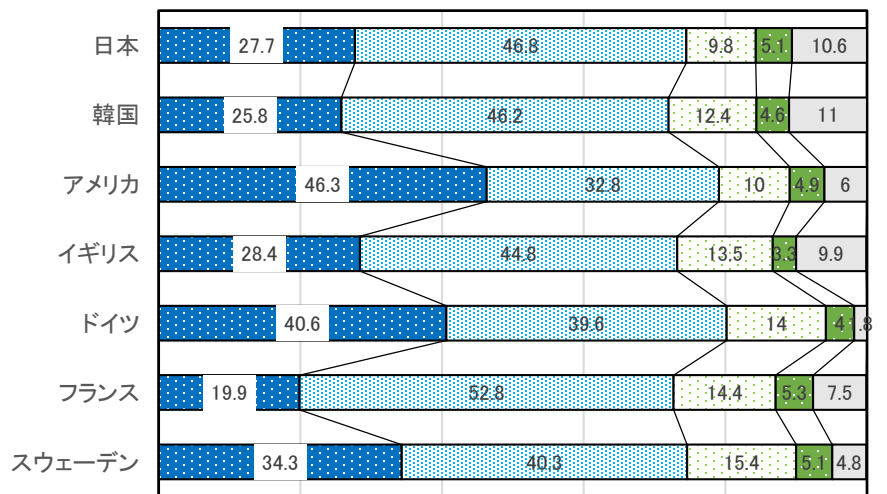
今住んでいる地域(市町村)が好きか (%)

将来もずっと今の地域(市町村)に住んでいたいか (%)



■好きである □どちらかといえば好きである
□どちらかといえば好きでない ■きらいである
□わからない

■住んでいたい □移りたい □どちらでもよい ■わからない (%)



■好きである □どちらかといえば好きである
□どちらかといえば好きでない ■きらいである
□わからない

■住んでいたい □移りたい □どちらでもよい ■わからない (%)

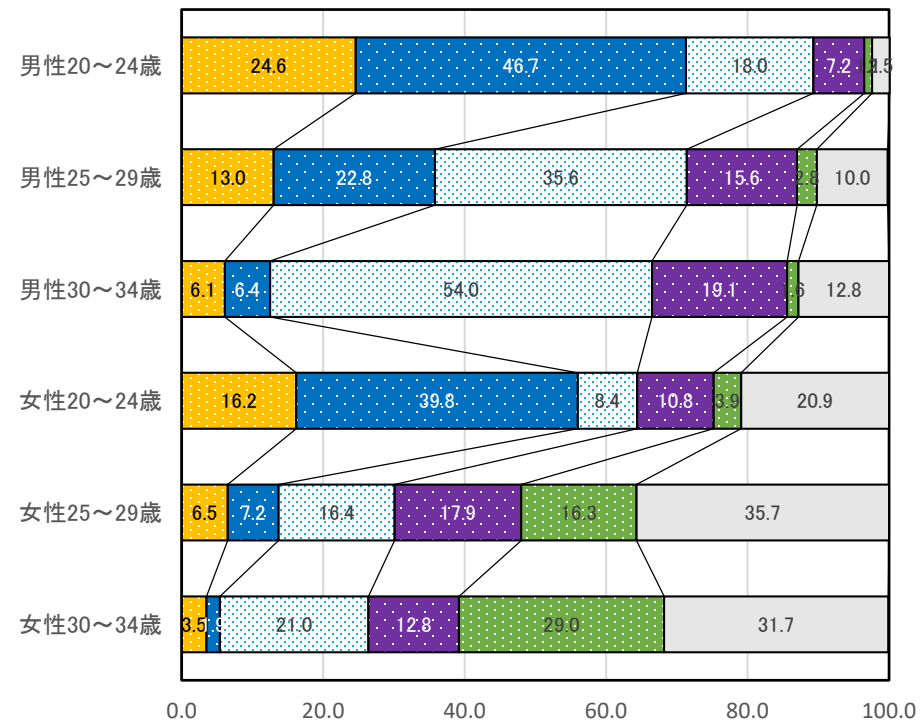
(備考)内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度)」により作成。対象は満13歳から満29歳までの男女。

若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識

○女性の移動理由については、進学・就職・転職に加え、「家族に同伴」、「その他(結婚・出産・親の介護等)」の割合が高い。

地方圏から東京圏への移動理由

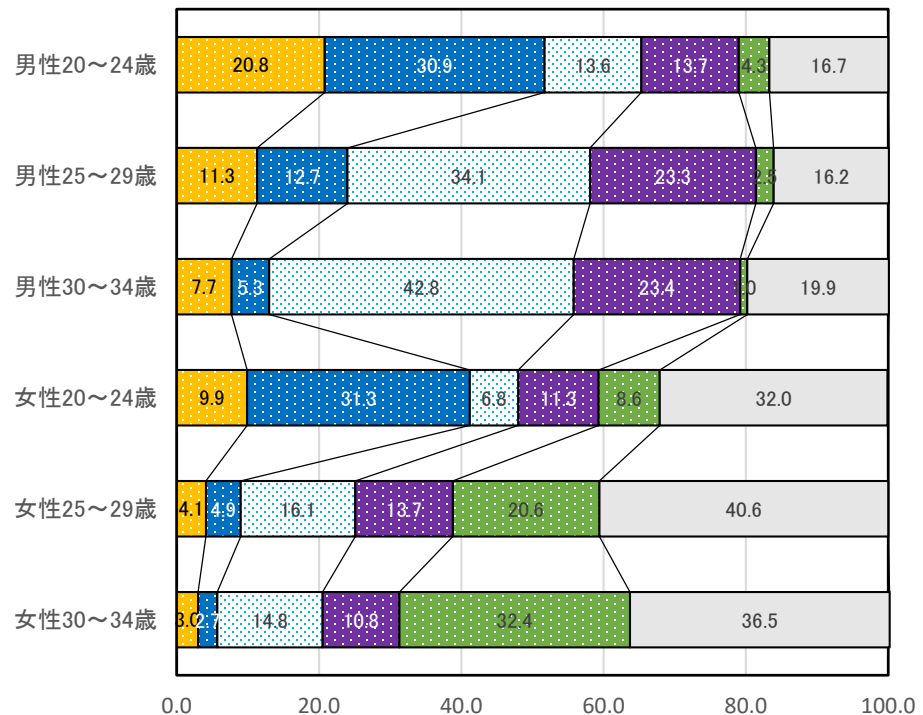
(%)



■進学 ■就職 □転職 ■転職 ■家族に同伴 □その他(結婚・出産・親の介護等)

東京圏から地方圏への移動理由

(%)



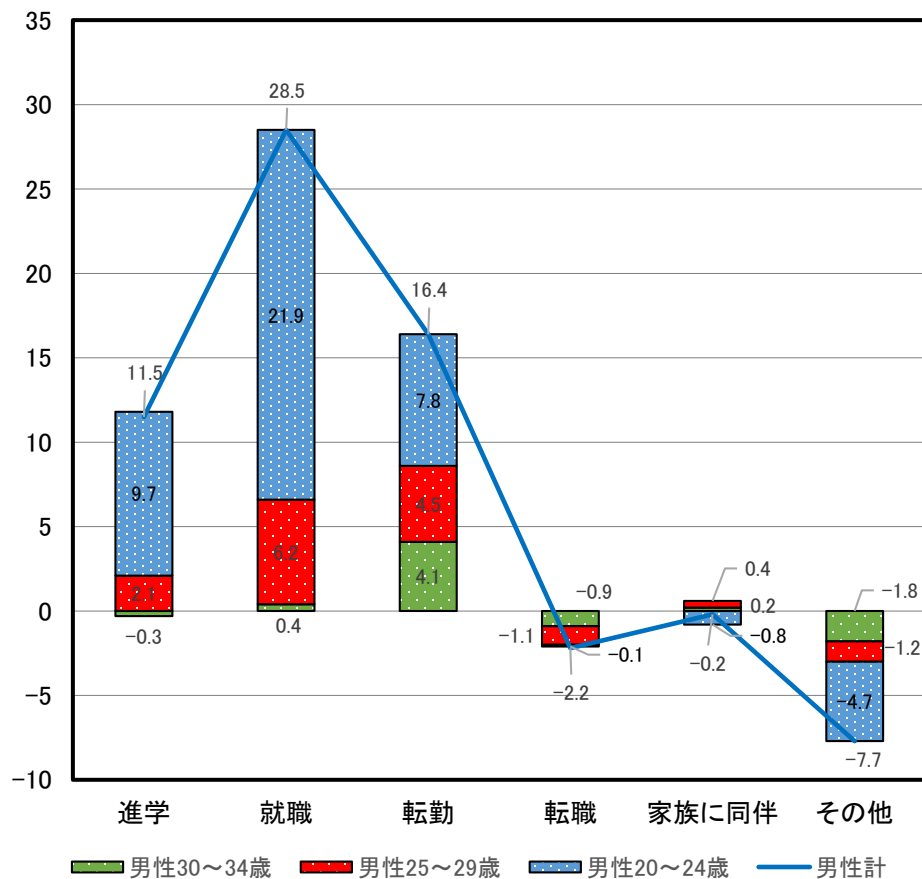
■進学 ■就職 □転職 ■転職 ■家族に同伴 □その他(結婚・出産・親の介護等)

(備考)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査(2019年4～5月調査)」により作成。

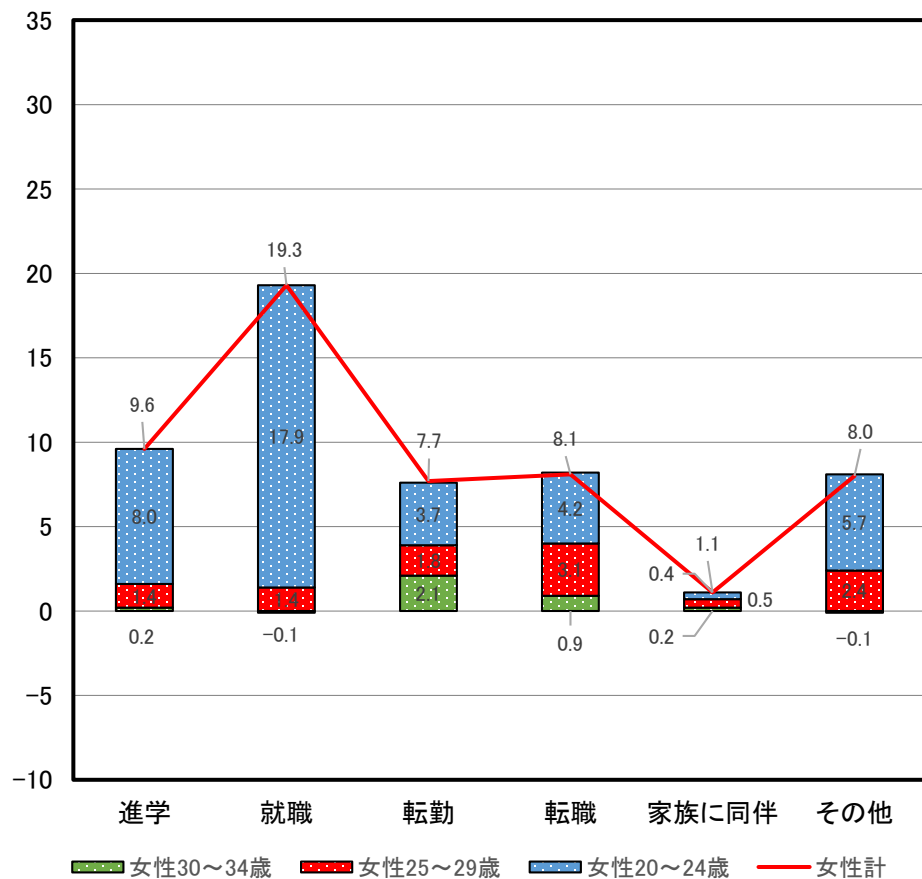
若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識

- 東京圏への移動については、男女共に20～29歳の割合が多い。
- 移動の理由は、特に進学、就職、転勤が多く、女性については、転職も多い。

東京圏への転入超過の理由(男性) (%)



東京圏への転入超過の理由(女性) (%)

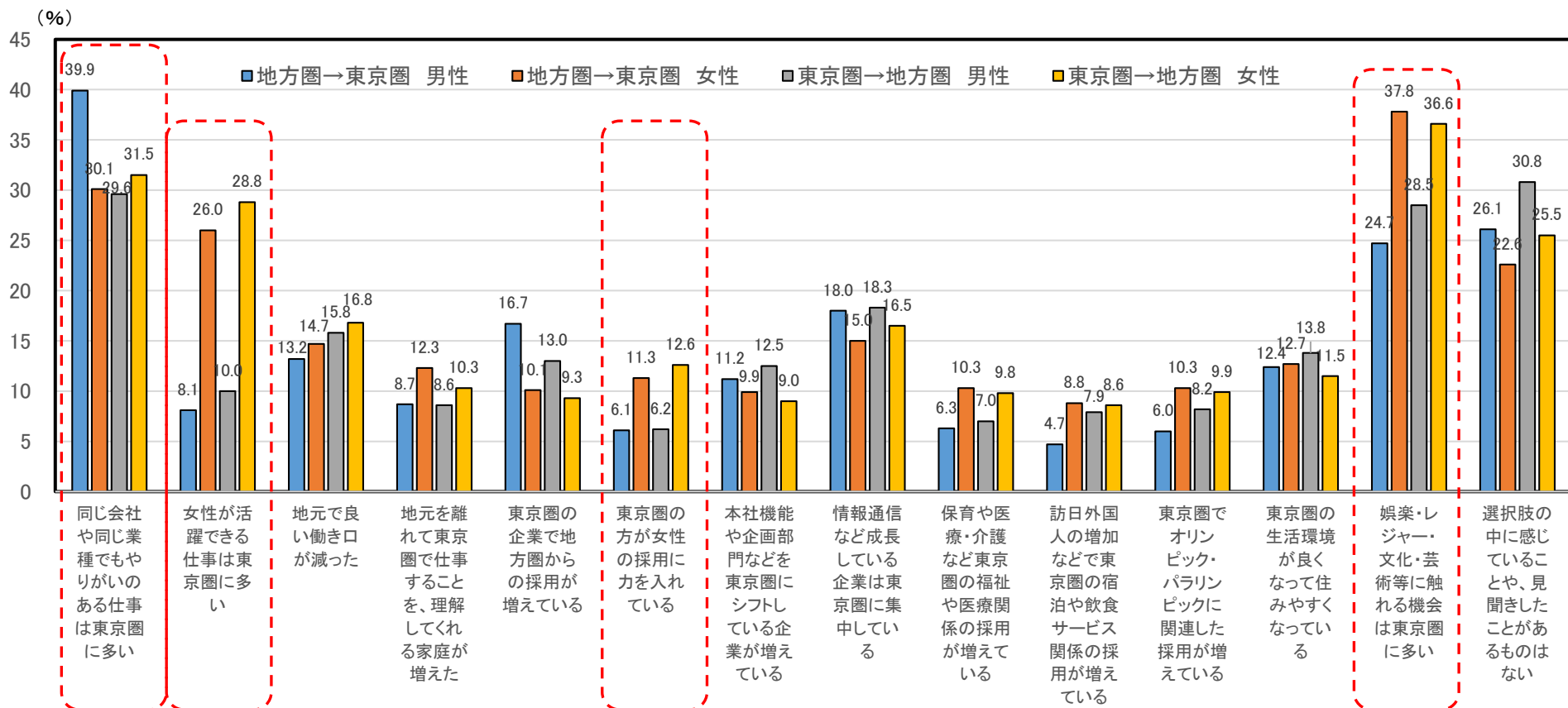


(備考) 1. 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査(2019年4～5月調査)」により作成。
 2. 東京圏への転入から地方圏への転出を差し引いた数の東京圏への転入超過数に対する比率。

若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識

- やりがいのある仕事、娯楽・レジャー等に触れる機会が東京圏に多いと感じている人が多い。
- 女性に関しては、女性が活躍できる場所、女性の採用意欲が東京圏で高いと感じている人が多い。

感じていることや見聞きしたことがあること



(備考)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査(2019年4～5月調査)」により作成。